



SHOKEI



SHOKEI

2016
511

尚絅学院中学校・高等学校の国際交流



大学・尚志祭(格闘技部)

尚絅学院中学校・高等学校の 国際交流

輝き

高校・インターアクト部

教職員エッセイ 梅の花

経営管理部事務職員/山下 とも

卒業生コラム はばたき

日東ベスト(株)特販事業部/伊藤 純さん

今号の言葉 宗教主任からのメッセージ

情報掲示板 学校行事報告、同窓会コーナー
後援会

vol.
511

2016年(平成28年)
12月10日発行

中学校「入試相談会」

今からでも間に合う、中学校入試!
この機会に、不安や悩みを解消しよう!

期 間 2017年1月16日(月)~18日(水)
時 間 16:00~18:30
内 容 各種相談、校舎見学、等
申し込み お電話でお申し込みください
Tel 022-264-5804
尚絅学院中学校入試広報部



開催!



里山再生プロジェクト

ボランティア
募集!

2015年度から大学に開設した「環境構想学科」を持つ尚絅学院は、周囲の山を里山「尚絅の森」として再生させるプロジェクトを立ち上げました。
地球温暖化に象徴される環境問題を解決するためのキーワードは「自然との共生」です。地域の人々が日常的に里山に立ち入り、ハイキングや植物・昆虫などの観察で市民や子どもたちが楽しい、また学べる時間を過ごすことができ、「自然との共生」の素晴らしさを体感できるならばその山は大きな価値を持つと言えます。
里山を地域社会全員の「公共財」として、本プロジェクトを尚絅学院だけでなく、行政、市民と協働して知恵を出し合い進めて行きます。皆で、里山「尚絅の森」を創って行きましょう!



活動日 毎月第2土曜日 10時~14時 場 所 尚絅学院大学 (学生駐車場集合) 内 容 里山再生エリアの整備活動

主催: 学校法人尚絅学院 協力: NPO 法人水守の郷七ヶ宿、他

申込方法 尚絅学院HP申込フォーム・申し込みFAX用紙より
※活動や準備物は毎回異なりますので、詳細は尚絅学院ホームページを参照してください

問い合わせ 尚絅学院 経営管理部総務課
名取市ゆりが丘4丁目10-1 E-mail soumuka@shokei.ac.jp
Tel 022-381-3332 Fax 022-381-3335

尚絅学院
後援会会員に
加入の
お願い

尚絅学院後援会は、「尚絅誌の発行」と「学院への援助」を行っている支援団体です。学院を応援して下さる方ならどなたでもご加入いただけますので、ご協力の程お願い申し上げます。

学院への援助と共に尚絅誌が届きます。
(年6冊 5回発送) 5月 7月 9月 12月 2月
※9月のみ通常号・入募集特集号同時発行

年会費 2,000円/年 納入方法 02230-3-2116
数年分をまとめてのお申し込みも、お待ちしております。 手数料無料の振込用紙がございますのでご利用ください。

※尚絅誌購読中の方で、氏名・住所等変更された場合は、ご連絡ください。
※記事を読んでの感想・懐かしい思い出のお写真、楽しい情報等もお待ちしております。
お手紙・おハガキ・TEL・FAX・E-mailにてご連絡ください。

尚絅学院後援会
事務局

〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1
TEL 022-381-3342 FAX 022-381-3467
U R L: http://ap.shokei.jp/dk/
E-mail: koenkai@shokei.ac.jp

渡辺 真理

チャリティー
パイプオルガン
コンサート

皆様のご来場を
お待ちしております。



2016年12月17日(土)
13:30~14:30(開場13:00)
会場/尚絅学院大学礼拝堂
入場無料

問い合わせ 尚絅学院大学 総務課
TEL 022-381-3333

おくやみ

ノーマ ビショップ様(84歳)
(元短期大学英文科教員・宣教師)
10月7日逝去されました

會澤 育子様(96歳)
(大学・表現文化学科教員 會澤まりえ様ご母方)
10月14日逝去されました

鈴木 登様(97歳)
(経営管理部・事務職員 鈴木寿様ご祖父)
11月17日逝去されました

今野 昭子様(89歳)
(大学・人間心理学教員 目黒恒夫様ご岳母)
11月21日逝去されました

編集委員
編集後記 徒然日記

今、尚絅は大きく生まれ変わろうとしている。新しい大学院「人間学専攻」開設や中学校教諭(国語科)の資格取得の実現、中学・高校・幼稚園での様々な改革と取り組みなど、少子高齢化の急迫に向けた先手が次々と打たれている。「尚絅らしき」は言葉で定義することは難しいが確実に存在する。この「尚絅らしき」を絶対損なわず、教育機関としてさらに高度に発展し、未来永劫に尚絅学院が輝き続けるよう教職員全員一丸となって頑張らなければならない。

(K・O)



韓国イサベル高校受入時

米国・海外研修(対象 中学校3年)

場所／アメリカ合衆国・モンタナ州ミズーラ市 2016年7月19日～8月2日

主なスケジュール

7月19日	ミズーラ空港到着→ノールズ・ホールへ
20日	オリエンテーション→モンタナ大学キャンパスツアー→授業
21日	授業→バスでRockin' rudy'sへ買い物→サウスゲートモールへ
22日	授業→キャンパスライフ→夕食後IMマウンテンへハイキング
23日	授業→バスでスプラッシュモンタナへ
24日	礼拝出席→Tシャツを絞り染め
25日	授業→HuHotモンゴル料理店へ→Cold Spring小学校へ・Sentinel高校へ→英語の家庭教師との勉強
26日	授業→レーザータグやショッピング
27日	授業→サーモン湖でカヤックやパドルボードや水泳、バーベキュー
28日	授業→PBL(課題解決型学習)のプレゼン→夕食後Caras公園へ
29日	授業→午後ウォールマートスーパーへ買い物(1時間)→Spring Senior Residence(高齢者施設)で交流
30日	Farmer's Marketへ→LINC Olympicsへ
31日	キャンパスライフ→ターナーホールで送別会
8月1日	ミズーラ出発・帰国

中学3年生は、アメリカのモンタナ州へ行ってきました。英語に磨きをかけるのはもちろんのこと、積極的にコミュニケーションを取る大切さや、地球市民として世界で起きる出来事に向き合っていくことの重要性に気づくことのできた15日間でした。(担当:佐藤 綾子)



モンタナ研修に参加して

中学3年 小山内優介

私たち3年生は7月下旬から8月上旬までモンタナへ海外研修に行きました。この研修では言葉の壁はもちろんのこと、仲間の大切さを改めて実感させられました。モンタナはこれまでの研修よりも滞在時間がとても長く、それが原因で様々なトラブルも発生してしまいました。しかし、トラブルが発生してしまった時、みんなで協力し合い、乗り越えることができました。研修の終わった今、3年生は笑顔の絶えない明るいクラスになりました。このようなクラスになったのも研修のおかげだと思いました。

尚綱の皆様へ

Thank you all for your enthusiasm, cheerfulness and bright smiles! We can share memories of a lifetime together. (Tony Gamell)
(すべてあなたの熱意、陽気と明るい微笑をありがとう! 我々は、一緒に生涯の記憶を共有することができます。)



オーストラリア・短期語学研修(対象 高校生)

場所／オーストラリア・ブリスベン市 2016年7月20日～8月4日

主なスケジュール

7月20日	仙台駅→成田空港→(機内泊)
21日	→ブリスベン空港→市内観光(博物館・美術館見学、公園散策、水上バス体験など)→学校着・ホストファミリーとのマッチング、ホームステイ先へ
22日	オリエンテーション、キャンパスツアー、オージー英語入門
23日	休日(ホストファミリーとの生活)
24日	休日(ホストファミリーとの生活、教会礼拝)
25日	授業、歓迎会
26日	授業、エドワーズパークでのフィールドワーク
27日	遠足(ゴールドコースト・ドリームワールド)
28日	授業、オーストラリアの野生動物、オーストラリアのお菓子作り体験
29日	授業、小学生クラスへの訪問と交流
30日	休日(ホストファミリーとの生活)
31日	休日(ホストファミリーとの生活、教会礼拝)
8月1日	授業、アボリジニーの芸術・文化、ショッピングセンターで買い物体験
2日	授業、修了式(修了証書授与、尚綱生から感謝の言葉とパティやホストファミリーへの手紙、尚綱生の踊りの披露、茶話会)→ホストファミリーと帰宅
3日	学校集合→ブリスベン空港→成田空港着・宿泊
4日	成田→仙台駅・解散式

※CCCIでの研修内容
・尚綱生のための英語クラス、現地の高校生の授業を体験、ティータイムにパティとの交流など

ブリスベン市にあるCCCI(シティポイント・クリスチャン・カレッジ・インターナショナル)において、英語の語学研修を主な目的とする短期留学を実施してきました。午前中は語学研修、午後は英語を実践的に使うアクティビティなどを体験する内容でした。参加した11名の生徒は、明るく伸び伸びとした雰囲気のカンパスとオーストラリアの自然の中で、自分の新たな可能性に目覚めた研修となりました。(担当:森田 寿)



オーストラリア夏季語学研修に参加して

高校2年 姫野 音々

今回の短期留学で、私は支えてくれる人の有り難さを痛感した。初めての海外、初めての短期留学。文字通り右も左も分らない状態の私を助けてくれたのは、同じ学校の友人たちと、ホームステイ先の家族だった。英語が下手な私を支えてくれるこの人たちの支えがなければ、今回の短期留学はとてつもないもので終わっていたらう。今回の経験を生かして、これからも自分を支えてくれる人に感謝しつつ学んでいこうと思う。

尚綱学院中学校・高等学校の国際交流



中高では、「他者と共に生きる」という教育目標から国際交流に力を入れてきました。現在、中3生の海外研修(米国)、夏期短期語学研修(韓国)、イサベル中高との短期交換留学(韓国)、シュターデ市との短期交換留学(ドイツ)、スタディツアー(東南アジア地域)の5つの短期留学プログラムを継続的に実施しています。また、長期留学として、シティポイント・カレッジ(豪州)への1年間のプログラムも行っております。その他にも、民間留学機関を利用した交換留学(フランス・米国など)をする生徒も毎年数名います。受け入れでは、短期交換留学に加えて、長期留学生(タイ・フランス・インドネシアなど)も毎年積極的に受け入れていきます。中高・総務部主任 松宮 正樹

韓国イサベル短期交換留学(対象 高校生)

場所／大韓民国・プサン市 2016年7月13日(水)～19日(火) (イサベル短期留学と受け入れを隔年で実施しています。)

「尚綱とイサベル校との姉妹校交流を深める」「ホームステイによる生活体験をとおして、日本と韓国の文化理解を深める」を目的として、6日間滞在してきました。(担当:灰野 浩)

主なスケジュール

7月13日	仙台→成田着(成田宿泊)
14日	成田→釜山着 イサベル校へ
15日	登校→交流会・イサベル生と授業
16日	陶磁器作りの体験→ホームへ
17日	ホスト家族と過ごす
18日	登校→授業(音楽・美術・体育)
18日	釜山ツアー → ホームへ
19日	登校→空港へ釜山発→成田着→仙台着



尚綱学院高等学校のみなさま

1998年5月、尚綱学院高校とイサベル高校が神様の計画の中で姉妹関係を結んで以来、両校の関係が深まってきたことをとても誇りに思っています。尚綱生は純粋で明るくて礼儀正しく、特に礼拝時間での静かで敬虔なお姿は大感動でした。神様の祝福が尚綱学院高等学校と永遠に一緒にいることをお祈りします。



イサベル高等学校 キム・スンナム校長

ドイツ短期交換留学(対象 中学校3年～高校3年)

場所／ドイツ・ベルリン市、シュターデ市 【隔年実施】2017年3月17日～31日(予定)

中高では、10余年にわたりドイツのシュターデ市と交流を続けています。

来年3月に、これまでのようにシュターデ市を訪れ、現地のギムナジウム(中高一貫校)にお世話になる予定で、生徒宅にホームステイをし、生活を共にすることで異文化理解、他言語コミュニケーション能力を養います。その後首都ベルリン市(州)を訪れ、ヨーロッパ随一の、世界的に見てもハイレベルな芸術・文化に触れ、感性を豊かにし、合わせて先の大戦の戦争遺構や関連施設に訪れ戦争について学び、平和について考える時を持ちます。また、教会の見学やミサへの参加などを通して、キリスト教についての理解を深めます。(担当:西川 慶)



親愛なる尚綱学院のみなさま

私たちシュターデ市にあるヴィンツェント・リュベック・ギムナジウムでは仙台からの皆様の訪問を心よりお待ちしております。2017年3月にお会いしましょう!!



V.L.ギムナジウム ネーマン校長



日東ベスト(株)特販事業部

伊藤 純さん

2009年 尚綱学院大学健康栄養学科 卒業

〔卒業生コラム〕

habataki

はばたき

vol.44

“なりたい自分”になるために、
大学で過ごす4年間で大事にして
思いきり充実させよう！

1.この仕事を選択した理由と、 仕事に就いて今感じている事を お聞かせください。

もともと『食』に興味があり、将来『食』に関わる仕事に就きたいと思い、管理栄養士という職種を目指しました。病院や介護施設での管理栄養士業務を目指しましたが、『より多くの人に食の感動を届けたい!』と思い、食品メーカーである日東ベストに入社する事となりました。当社は、業務用の冷凍食品メーカーです。学校給食やスーパーのお惣菜、外食店向け等の商品を製造・販売しております。入社してからは、『試作開発部』にて商品の開発業務に携わりました。現在は営業部門に異動になり、担当するお客様に商品のPRを行っております。“お客様のニーズ”に応えられる商品を開発し、導入して行く事は難しいですが、お客様の『美味しい笑顔』のため、日々奮闘しております。

2.仕事の上でのやりがいについて教えてください。

自分で開発した商品を使用して頂く事や、お客様の要望に合致した商品を提案し、導入に繋がった時にやりがいを感じます。特に開発に携わっていた時は、自分の開発した商品が全国のお客様に使用され、食べた人から「美味しい」という声を聞いた時は、感動を覚えました。『食の感動』を届ける事が仕事ですが、逆に“食”を通して感動を頂ける事に面白みを感じております。

3.後輩へのアドバイスをお願いします。

大学生の4年間というのは、今思い返しても充実した日々でした。講義や実習、就活、国家試験対策…等大変な事もありましたが、多くの仲間と思いつき遊び・学びました。何事も“本気でやる”事は重要です。大学時代にしか出来ない事、やりたい事、様々な体験を通して、“なりたい自分”になってください。



商談風景



デスクワーク

2005年4月	尚綱学院大学健康栄養学科入学
2009年3月	同 卒業
2009年4月	日東ベスト株式会社入社(試作開発部)
2014年4月	同 健康事業部
2016年4月	同 特販事業部
	現在に至る

輝き

Vol.9

高校・インターアクト部

インターアクトクラブは、仙台ロータリークラブのサポートのもと活動している部活です。高校1年生9名、2年生10名、3年生2名で、国際交流や奉仕活動をしています。国際交流では、留学生との交流やスカイプ、留学経験者の報告会や海外事情を知る研修会への参加を行なっています。また、広瀬川の清掃活動をはじめ、植樹活動、障害者



集合写真

の方々との交流、ネパール大震災被災者への募金、仙台国際ハーフマラソン大会での車いす選手の補助などのボランティア活動に参加しています。その他にも、宮城野区と協力して地域の紹介をする「かべ新聞」を製作しています。今年の夏には、さだまさしさん設立の「風に立つライオン基金」から顕彰状が贈られました。私たちは、たくさんの人との出会いを通して世界への視野を広げ、お互いの意見を尊重しながら共に成長できるよう努めていきたいと思っています。

部長・二井谷友 副部長・針生志音



「かべ新聞」作りで
うみの杜水族館取材

「きっこ先生」

「きっこ先生」という方がいました。きっこ先生は、私が通っていた幼稚園の園長先生の娘さんで、その教会で行われていた「こひつじの集い」の中心にいた人でした。「こひつじの集い」は、月に1度中高生が一人一つ食材を持ち寄って晩ご飯を皆で作るという会です。私も高校生の頃から通うようになり、大学2年生頃まで「お姉さん役」としてちゃっかり顔を出していました。

きっこ先生はいつも笑顔の人でした。いくつかの大学で教えており、とても忙しいはずなのに疲れた顔などこれっぽっちも見せずに、明るく中高生と料理を作っていました。ちょっとしたことで褒

めてくれ、やる気にさせるのがとても上手。ずいぶんと年上でしたが、私たちと同じ目線にたって、でもしっかりと導いてくれる。そんな先生みたいな大人になりたいと、私は素直に思っています。

ある日、私は指輪を教会に忘れてきてしまいました。次の日は礼拝だったので、私はきっこ先生に明日見つけたら預かっていて下さいとメールをしました。するときっこ先生はわざわざ夜の教会に戻り、「今度会った時に返すね!」と返事をくれました。ですが、指輪を受け取る機会がないままに、きっこ先生はあまりに突然に神様のもとへ行ってしまいました。

教職員エッセイ vol.44

梅の花

経営管理部事務職員

山下 とも

きっこ先生に預けたままの指輪に、私はまだ、きっこ先生とのつながりを感じています。



宗教主任からの
メッセージ
④



田所義郎

わが名を畏れ敬う
あなたたちには、
義の太陽が昇る。

(マラキ3章20節)

クリスマスはイエス様の誕生日ですが、クリスマスが12月25日であるとは聖書のどこにも書かれていません。クリスマスが12月25日に祝われたという最古の記録は西暦336年のことです。クリスマスはイエスの誕生日ではなく、イエスの誕生を記念する日なのです。

12月25日は冬至です。この日から日照時間が少しずつ長くなっていきます。ここにはイエス様が暗闇を照らす太陽のように、すべての人の救い主としてこの世に來られたという意味が込められています。ChristmasはChrist(キリストの)+mas(ミサ・礼拝)です。ぜひクリスマスに学校や教会で行われる礼拝に参加してみることをお勧めします。

情報
掲示板

各学校からのお知らせ

芸術の秋、スポーツの秋
勉学に励む秋…。さまざまな秋を
体験&挑戦することができました。

学院

11月24日(木)

創立記念礼拝



11月24日(木)に創立記念礼拝が中学校・高等学校校舎礼拝堂で行われました。日本基督教団仙台北三番丁教会牧師の江連実氏をお招きし、「唯一の神を知ること」と題した説教をいただきました。基調講演では「なぜ建学の精神を継承することは大切なのか」と題し、キリスト教学校教育同盟の磯貝曉成氏より「尚綱学院の教職員が自ら建学の精神の実践者として行動している」とお話がありました。



その後の教職員発表では、建学の精神を踏まえた活動や考えを3名の教職員が発表し、来年で創立125周年を迎えるにあたり、建学の精神の大切さを改めて教職員全員で共有した実りある場となりました。最後の職員表彰式では優秀職員表彰(2名と1グループ)と永年勤続表彰(6名が行われました)。(総務課 吉田 祐也)

職員表彰式(2名と1グループ)
○佐藤 淳一
○阿部 千恵子
○健康栄養学科実験助手
千葉 元子
菅野 美千代
鎌田 久仁子
角田 由希
森谷 祐佳

永年勤続表彰
30年 佐藤 淳一
20年 松本 真奈美
三浦 理枝
齋藤 陽子
佐々木 義則
吉谷 正樹



中学校

10月31日(月)～11月2日(水)

中2・イングリッシュキャンプ
英語で輝く



10月31日から2泊3日で始まったイングリッシュキャンプ。私は正直言うって、行きたくありませんでした。英語は得意だけど好きではなかったからです。嫌々出発し、あつという間に到着してしまいました。しかし、思っていたのとは真逆でキャンプはとても楽しいものでした。ネイティブの英語に触れることが出来、いつもより積極的になった気がします。先生が何を言うてるのかはつきりと分からなくても、ジェスチャーなどで分かり合えた感じがします。

最後のプレゼンテーションでも、クラスみんなが胸を張って発表していて、一人一人が輝いていました。

(2年 山口 結子)

11月24日(木)
尚綱音楽祭



11月24日(木)に中学校・高等学校校舎礼拝堂にて、昨年度に引き続き第2回目となる「尚綱音楽祭」を開催しました。当日は同窓生・学生・生徒・教職員・地域の方々など、約500名の来場者の方々に、合唱ピアノ・オーケストラを中心とした尚綱の音楽をお楽しみいただきました。今年は、中高生と大学生が一緒にオーケストラ演奏・合唱をするステージが実現し、運営側にも中高の演劇部・宗教部放送部が参加するなど、昨年より一層「オール尚綱」による音楽祭となりました。また来年の尚綱音楽祭に期待いただければと思います。(総務課 吉田 祐也)



11月1日(火)～2日(水)
中1・フィールドワーク



今回フィールドワークでは、1日目に八幡町について勉強しました。昔からあるお店などにインタビューをして、八幡町のことを知ることができました。2日目は、水質調査で広瀬川に行きました。広瀬川では、サケの産卵を見ることができました。指標昆虫の観察をしたら、初めて見るものがたくさんあったので、いろんな昆虫を知ることができました。そして、水についても知ることができたので良かったです。

これらの学習を通して、これからのまちづくりに生かしていけたら良いなあと思います。そして、八幡町のことを多くの人に発信していきたいと思いました。

(1年 福士 優菜)

幼稚園

10月19日(水)

秋の遠足(年少)



気持ちの良い秋晴れとなった10月19日(水)、年少組では仙台市八木山動物公園へ遠足に行きました。園内の散策では秋の自然を感じながら、日頃身近に触れることのないアフリカゾウやカバ、キリンなどさまざまな動物が揃ったアフリカ園を中心に散策してきました。子どもたちは間近で見る迫力のある動物に大興奮。目を輝かせながら見入っていました。また、園内の広場ではお弁当とおやつを食べました。青空の下友だちと食べるお弁当とおやつは格別のものとなりました。楽しい秋の一日、年少組の思い出がまた一つ増えました。(幼稚園教員 武田 美咲)

中学校・高等学校

10月18日(火)

収穫感謝礼拝と施設訪問



10月18日(火)の朝、中高の生徒一人ひとりが秋の実りを持ち寄って礼拝堂に飾り、収穫感謝礼拝を守ることができました。さげられた秋の実りは、聖書の時間で生徒たちの手により25個の箱いっぱいに分けられました。中学校、高校1年2組、1年4組、宗教部の生徒たちが、それらの秋の実りを持って市内5ヶ所の病院や福祉施設を訪問しました。今年も花束だけではなく、歌のプレゼントや交流の時間を持つことができました。ご家庭での協力にも感謝です。(宗教部副主任 赤井 慧)



11月5日(土)
幼稚園創立
60周年記念式典

式典当日の11月5日(土)は暖かな光に包まれ、「大空高くどこまでも」と子どもたちが大好きな園歌『光の子』のメロディーが空に響き、そして、どこまでも広がっていくような青空でした。

第1部礼拝は大学礼拝堂にて、元園長山形潔子先生からお話をい



ただき、八幡旧園舎時代の子どもの会話を思い出して、懐かしさでいっぱいになりました。



第2部お祝いの会は多目的ホールにて、園児、保護者とご家族、旧職員、お世話になつていらっしゃる方々等約400名が、皆で軽食を囲みながら一緒に楽しい時間を過ごしました。※園歌「光の子」は、創立30周年記念として作詞・元園長菅千代先生、作曲・元園長今井邦男先生に作っていただきました。

(幼稚園教頭 坂本 由佳里)

10月15日(土)・10月16日(日)
中学・尚綱祭



今年の尚綱祭は、新校舎で行う記念すべき一回目でした。私にとつては中学校生活最後の尚綱祭でも

高校・尚綱祭



今年度の尚綱祭は、新校舎での初の開催ということもあり、正直未知の世界であり、何回も話し合いを重ねては実践しての繰り返しでした。新しいことを始める」と

高等学校

9月9日(金)

高2・尚綱学院大学 模擬授業



高校2年生総合進学コース文系の生徒を対象に、尚綱学院大学の模擬授業を体験するプログラムが行われました。全6学科から2学科を選択し受講します。生徒たちは専門的な知識のたくさん詰まった授業に目を輝かせながら、質問をするなどして積極的に授業に参加していました。

どの授業も生徒たちが普段受けられないようなものであり、とても新鮮だったようです。生徒の感想には、「更に尚綱学院大学に入りたい意思が強まった。」「大学に興味をもつことができた。」などの前向きなものが多く、有意義な時間をもつことができたと確信しています。将来のことを考える良い機会となりました。

(進路部 加藤綾性)



あり、今までで一番良いものにしようと思ひ組みました。中学校では、一年生が校舎の装飾を行い、二年生がカフェを、三年生が駄菓子屋を出店しました。どの学年もクラス一丸となって取り組みました。生徒会としてはデザインをこれから考えた記念品のタオルを販売

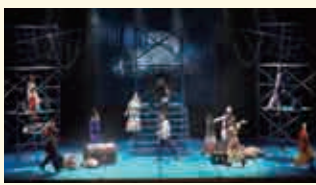
いうのは思っていた以上に過酷であり、頭の中で思い描くものを実際に造り上げるとなると、私たちの力ではどうしようもできないというのが現実でした。上手くいかず立ち止まってしまう度に、自分の無力さを思ひ知りましたが、いろいろな人の支えもあり、無事尚綱祭を迎えることができました。



成功したのもあれば、悔しい思いをしたものもあり、反省ばかりの尚綱祭となりましたが、たくさんの人の楽しそうな笑い声や笑顔を見て、頑張ってきた底から思ふことが出来ました。こうやって無事に尚綱祭が終われたのは、たくさんの方の協力があつてこそだと思ひます。本当にありがとうございました。(文化祭実行委員長 土生木 愛名)

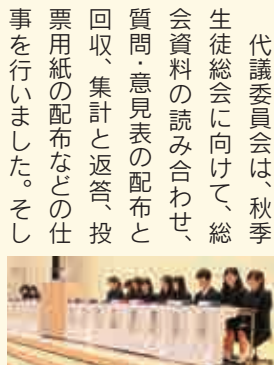


10月25日(火)
芸術鑑賞会



私たちは授業の一環として『消えた海賊』という音楽劇を見に行きました。陽気な海賊たちは精神の若さ、美しさ、そして自由を私たちに教えてくれました。観客を巻き込む演技に圧倒されました。私が特に印象的で共感したのは「戦争で人を殺せば誉められて英雄になり、平時に人を殺せば殺人犯として罰せられるというバカげた常識を我らがひっくり返したんだ。」という台詞です。そしてコミカルな雰囲気から一転、バットエンドという衝撃なラストが胸に刺さりました。(高校3年 山内 園香)

中学 10月24日(月)
高校 10月28日(金)
秋季生徒総会



代議委員会は、秋季生徒総会に向けて、総会資料の読み合わせ、質問・意見表の配布と回収、集計と返答、投票用紙の配布などの仕事を行いました。そして、秋季生徒総会当日には、協議事項として、野球愛好会の部昇格について協議し、賛成多数で軟式野球部として部活動へ昇格することが決定されました。また、報告事項では、「制服に関するアンケート」の結果や理想協で話し合ったことについての報告を行いました。私にとって生徒会執行部を引退する前、最後となった今回の仕事は、責任を持って取り組めたと思います。今までの活動を、きちんと後輩に引き継ぎをしていきたいです。(代議委員長 渡邊 葵)

大学

7月30日(土)～8月19日(金)

韓国・培材大学 サマースクール報告



9名の学生が7月30日から8月19日まで、韓国の協定校の培材大学で行われたサマースクールに参加しました。学生は6月から事前学習を重ねて研修に臨み、研修期間中は韓国語や文化に関する学習

テコンドー体験・観光地見学などをしてしながら、培材大学の学生や世界中から集まった学生と交流をしました。韓国語の語学力向上はもちろん、英語も用いて交流したことで、国際的視野を広げ、より関心を深める機会となりました。研修後には学内で報告会も実施し、学びや発見、来年の研修を検討する学生へのアドバイスなどを発表しました。

◆サマースクールに参加して

現代社会学科4年 西楨 美紀
私は今年の夏に韓国 培材大学で行われたサマースクールに参加しました。研修では韓国語や韓国文化を学ぶ授業や、遊園地訪問、テレビ番組観覧などの体験をしました。初めて行く場所ばかりで、少し緊張しましたが、培材大学の学生や世界中から集まった参加者と交流しながら楽しく過ごすことができました。3週間という短い期間でしたが、異文化を感じながら、毎日韓国語の学習に励み、日に日に成長を感じることができました。

7月30日～8月19日 培材大学 主なスケジュール

1日目	仙台→韓国
2日目	オリエンテーション キャンパスツアー ディナーパーティー
3・4日目	韓国語の授業・活動1 体育大会・韓国学授業1
5日目	旅行inソウル
6日目	韓国語の授業 他 土日休み
9日目	韓国語の授業
10日目	旅行inヨンイン
11日目	韓国語の授業 野球の試合観戦
12日目	韓国語の授業・活動2 韓国伝統遊び
13日目	旅行 ソウルツアー 土日休み
16日目	国家記念日
17日目	韓国語の授業 韓国学授業2
18日目	韓国語の授業・活動3 テコンドー
19日目	韓国語の授業・掃除・修了式&送別会
20日目	寮のチェックアウト・帰国

9月4日(日) 環境構想学科・エコフェスタ 出展&ボランティア



勾当台公園市民広場で開催されたエコフェスタ(アメニティ・セ



んだい推進協議会主催に学科企画「大学生エコ活動発信」もつたない!古布から物作り体験」というテーマで出展しました。

捨ててしまうような小さな布、例えば、シミのある古着、大学の衣服実習で服作りした後の裁断くず、実験の残り布などを「もったいない」(ごみにせず)に活かそう」とアパレルデザイン実習で学んだ織物の基礎技術を応用して裂き織とアクセサリー作り教室を開きました。今年も大盛況で、「ぜひ来年も参加したい」との要望がありました。学科出展だけでなく、エコフェスタの運営ボランティアとしても学生たちは活躍しました。

(環境構想学科教員 玉田 真紀)



尚綱学院後援会は、学院の充実と発展に寄与するため「学院への援助」と「尚綱誌」の発行を行っている支援団体です。これまでに発行した尚綱誌は511号となり、また中学高等学校礼拝堂・大学礼拝堂のパイプオルガンをはじめとする様々な教育環境の整備のために支援を行っております。

今年もまもなく卒業時期が近づき「卒業生入会案内」を保護者の皆様へお届けする時期となりました。卒業後は、卒業生会員として母校との繋がりを保持していただき、学院支援のご協力をお願い申し上げます。

初回の入会手続きは、保護者の皆様からご支援いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

後援会 今年度卒業生の 保護者の皆様へ

後援会会費納入者(敬称略)

賛助会員

金一〇、〇〇〇円

高橋脩 太田喜一郎 氏家道子
落合玲子 和泉眞喜子 伊藤理紗
伊藤仁美 赤坂夏海 平塚未紗
大泉春佳 車田智子 野澤初恵

金六、〇〇〇円

佐久間新一

金五、〇〇〇円

阿部久子 小野昌子 斎藤多賀子
日本ハブテススト気仙沼教会
東海林茂子

金四、〇〇〇円

福田弘子 菊地文武 道又百合子
篠田芳美 水上佳子 佐々木尚子
高出美津江 小笠原義道

金三、〇〇〇円

虎岩頼忠 鈴木昭子 柳澤静子

皆様の「芳心」により感謝申し上げます。

今回の芳名は 4月1日より11月28日後援会同窓会受付分の掲載です。

金二、〇〇〇円

小西道子 市川喜巳 佐藤美枝子
境澤和男 今井敦子 三戸部英子
佐藤幸子 斎洋子 山本佐知子
奈良耀子 上西則子 杉本登代子
穂積昌子 滝田光 朝長スミエ
荒井禮 齋藤敦子 吉田千代子
吉田恵子 後藤たき 押切あけみ
大友ミエ 土生絹子 平間佐喜子
木村淳子 安澤恭子 鎌田三千子
畠山敬子 岡崎美砂 菅原眞美子
吉川孝子 斎藤典子 音羽眞理子
高澤喜一 高瀬博子 千葉由美子
齋亮子 安住美佳 横山たか子
菊田園子 斉藤佳子 馬淵眞理子
穴戸弥生 瀬谷眞代 川崎瑠美子
山本博美 福岡理恵 伊勢とよ子
石岡宏 高橋克子 馬場ゆふ子
林桂子 浅野京子 大橋美智子
蟹澤詔子 木島桂子 祖川かつ子
山下洋美 金森順子 川上千華子
阿部玲子 安達英子 田中かをり
播磨子 伊藤雄子 佐々木ケイ
井出綾 氏家なほ 大久保桂子
遊佐久雄 村主由美 上西ひろ子
小泉恵子 山川高子 菊地めぐみ

同窓会協力費納入者(敬称略)

正会員

金一〇、〇〇〇円

伊藤倫子

金六、〇〇〇円

高橋眞子

金五、〇〇〇円

小野昌子 東海林茂子 熱海和子

金四、〇〇〇円

加藤房枝 福田弘子 村主由美

金三、〇〇〇円

虎岩頼忠 上西則子 鈴木昭子
氏家道子 柳澤静子

金二、〇〇〇円

川村優果 小西道子 三戸部英子
今井敦子 本郷智子 山本佐知子
佐藤幸子 奈良耀子 斎藤多賀子
穂積昌子 吉田恵子 朝長スミエ
後藤たき 土生絹子 吉田千代子
畠山敬子 安澤恭子 平間佐喜子
木村淳子 穴戸弥生 横山たか子
瀬谷眞代 伊藤雄子 川崎瑠美子
齋藤幸子 齋田尚子 伊勢とよ子
樹谷恵子 小野樹子 馬場ゆふ子
村田陽子 松村勝代 大久保桂子
佐藤育子 佐藤了子 昆野牧恵
鶴間順子 猪狩淑子 伊藤美津子
斎洋子 今野むつ子 野口サチ子
荒井禮 上西ひろ子 菊地めぐみ
長田彩 佐々木純子 渡辺美津子
井出綾 吉岡八重子 佐々木久美子
戸村千恵子

10月15日(土)・10月16日(日)
通！尚志祭！



10月の15・16日共に晴天に恵まれ、お陰様で3513名のお客様にお越しいただき、無事尚志祭を終えることが出来ました。

今年は『通』というテーマを掲げ231人で活動してきました。このテーマに込められている思いの通り、尚綱生ならではのパワフルさでいろいろな新しいことに挑戦し全員で乗り越え、『通』とこ来場頂いたお客様、尚志祭に携わるすべての方々、そして尚志祭実行委員と感動を分かち合えた二日間



になりました。どんなことにも一生懸命取り組み、尚志祭愛が強い231名と活動できた約半年間はみんなにとってそして私にとつても最高の思い出になりました。

来年もその先も笑顔いっぱい尚志祭になるよう願っていますので、どうか今後とも温かい目で見守っていただければ幸いです。

(尚志祭実行委員長 木口 茉奈美)

10月15日(土)・10月16日(日)
表現文化学科・
佐藤ジュンコライブ・
ドローイングin尚志祭



10月15日(土)・16日(日)に行われた尚志祭オープンキャンパスにおいて、表現文化学科展示教室内で、イラストレーターの佐藤ジュンコさんによるライブ・ドローイングが行われました。当日、ジュンコさんは、学内を歩いてから、その様子を次々と教室内のドローイングスペースに描いていきました。ジュンコさんに自画像を描いてもらった学生が、お返しに、ジュンコさんを描いたりするうちに、広いスペースは楽しいイラストでいっぱいになりました。表現文化学科では、今後もこのような体験型のイベントを企画していきたいと考えています。ご期待下さい。

(表現文化学科長 秋月 高太郎)

10月15日(土)・10月16日(日)
短大保育科&四大学子ども
学科・ホームカミング
ティーパーティー



尚志祭の期間中、短大保育科・4大子ども学科のミニ同窓会が開かれました。参加卒業生は16名。それにこ主人と子どもたち、退職された山形潔子先生、高木和男先生、そして現任教員たちを含めて30名集まりました。

会では懐かしい歌、自己紹介と近況、子ども学科の現状を報告したあと、できれば以前の短大保育部会がされていたような同窓会を復活させたいという願いをお伝えし、実行委員会立ち上げを承認していただきました。来年秋11月初旬の土曜日を計画しています。覚えて協力ください。

古いアルバムに写った自分を見て「若くい！」と卒業生。でも、今も若々しい。そして輝いて見えました。(子ども学科教員 東 義也)

同窓会コーナー

◆第6回アフタヌーンコンサート



10月8日(土)2時半から2年ぶりとして新礼拝堂で初のアフタヌーンコンサートが開催されました。出演は尚綱学院こども学科教授の佐藤淳一先生と伴奏の佐久間葉子さん、中高合唱部です。淳一先生は「待ちぼうけ」「オペラ「魔笛」より「なんとも美しい絵姿」等8曲を歌い日本の歌、オペラ、カンツォーネとバラエティに富んだ曲を聞かせていただきました。合唱部は「詩編100」「尚綱女学院校歌」等4曲。最近尚綱学院校歌を歌う機会が多くなっていますが、やはり同窓生にとつては、橄欖山の夕暮れの、方々とも懐かしかったです。

あいにくの雨模様でしたが、礼拝堂いっぱい響く素晴らしいテノールの歌声と若々しいコーラスは夢のような時間でした。同窓生だけでなく、ご近所の方にも来ていただき感謝です。(役員 熊谷 史子)